

ふれあい

——ホームステイによる国際交流——



文部省選定

- ◎企画—国際協力事業団
- ◎製作—㈱桜映画社
- ◎規格—16ミリ・カラー・31分
- ◎価格—16ミリ/210,000円(消費税別)



ほうれん草の出荷を手伝うブラモートさん。

ホームステイの受け入れは
難しいものではありません。
ふだん着のままで迎えるのが
いちばんのもてなしです。

これは、アジアの青年たちを迎えた
五つの家庭の物語です。

ホストファミリーと、
別れを惜しむガディさん。

◎—すいせん文

(社)日本国際生活体験協会事務局次長 **松丸信男**

今日、日本は、生活のあらゆる分野で世界と大きく関わっています。それ故、私達も国際関係を正しく理解し、他の国の人々の風俗、習慣、文化や立場を尊重しながら国民みんなで友好親善を進めていく必要があります。

個人レベルの草の根からの国際交流であるホームステイは、外国人の日本理解に、また私達日本人の外国理解にも極めて有効な方法であるといわれています。日常の暮し、生活体験を通してスキンシップを深め親しく交流をはかれば、一層容易にお互いの理解が進むでしょうし、

偏見・誤解を正しく解きほぐす上で大変有効であると思います。「案ずるより産むが易し」の諺のようにホームステイは、家庭内に言葉が多少でも分かる方がいて、熱意のある家族なら誰にでも体験できる異文化交流です。普段着で接して努めて構えず、家族の一員としての思いやりさえあれば楽しい思い出が期待できます。それには、まず「やってみる」という積極的な取組みをするべきではないでしょうか。

この作品は、日本政府が招へいた東南アジアの青年達との生の体験記録であり、微笑ましい視聴感と感激を残してくれる好材料であるといえます。

◎——製作意図

世界各国から日本に訪れる人々は、近年増加している。

そして、訪れた人たちが

ホームステイする草の根の国際交流も、盛んになってきている。

この映画は、アジアから訪れた五人の若者がホームステイした

五つの家庭の様子を記録したものである。

それぞれの家庭での工夫を凝らした迎え方、

同世代の若者たちとの意見の交換や文化をめぐっての相互理解、

また、子供たちやお年寄りたちとの心暖まるエピソードなど、

様々な出来事をきめ細かく追った内容となっている。

アジアの若者たちは日本をどう見ているのか、

また、彼らと、受け入れた日本人がホームステイの交流を通して

どのように変わっていったかを映画のなかで描きながら、

文化や生活習慣の異なる人間同士の「ふれあい」

——真の国際理解について考えていく。

◎——ストーリー

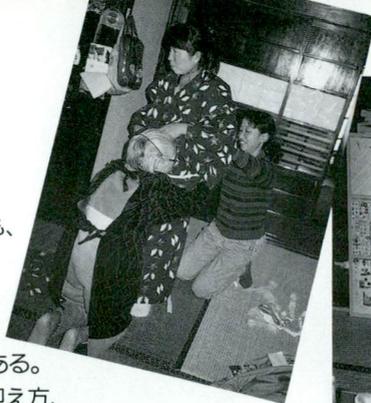
ホームステイの日が近くなってくると、青年たちは一様に落ち着かなくなってくる。「これから3日間を過ごす家はどんなだろう？ どんな人たちなのだろう？」彼らは、緊張と不安で心細い思いをしている。

タイのサムサコンで果樹園を営むプラモートさん（21歳）は、熊本県、阿蘇山の山麓で高地農業をしている高橋さんの家に訪れたが、家族揃って出迎えてくれたり、丁寧に家の中を案内してくれたりして、その緊張も少しずつほぐれていく。日本に来る前は日本人は排他的ではないかと思っていたプラモートさんであるが、高橋家の人々のやさしさに触れるうち、その印象が変わったという。

インドネシアの大学で助手をしているガディさん（26歳）を迎えたのは、群馬県藤岡市の丸山さんである。英会話のサークル活動をしている奥さんと二人暮らしの丸山家では、ガディさんは妹と娘のちょうど中間のような家族として迎えられた。パーティを催してサークルの仲間がガディさんに英語の紙芝居を見せたり、また、ガディさんからイスラムのお祈りを説明してもらったりして、習慣や信仰の違う者同士が次第に理解し合っていく。

タイの農村から来たヴァサイさん（25歳）は、熊本県の河津さんの牧場に滞在した。明るいヴァサイさんは、すぐに子供たちやおばあちゃんと仲良くなった。短い時間の中ではあったが、言葉が通じなくても身振り手振りでお互いに意思を通じ合わせることができ、ヴァサイさんもおばあちゃんを本当の家族のように感じたという。

そして、その他に、フィリピンの全国経済開発公団で働いているエドガーさん（29歳）や、同じくフィリピンの外務省で働くキャロルさん（24歳）も参加して、それぞれが、受け入れる家庭の人々との言葉の問題など、様々な障害を超えた暖かい「心のふれあい」を体験して3日間のホームステイを終えた。



小柄で、とても外国の人に見えないヴァサイさんは、いつのまにか誰とも仲良くなってしまう。子供たちも、おばあちゃんもすぐに彼女と気が合ったという。



エドガーさんは、大阪の電力会社に勤めている半崎さんの社宅にホームステイして、3日間を過ごした。



英会話サークルの人たちと、次第に打ち合っていくガディさん。

◎スタッフ

製作＝利光久輝

脚本＝花崎 哲

演出＝花崎 哲＋原村政樹＋

山田和広＋伊藤一夫

撮影＝江連高元＋村山和雄＋大野 洋

照明＝本橋俊男＋藤米義門＋橋本 登

編集＝吉田栄子＋加納宗子

音楽＝山崎 宏

解説＝牟田悌三

録音＝伊藤 亨

ふれあい

◎製作

株式会社 桜映画社

〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル6階
TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666